

研究集会開催報告書

自然科学研究機構
国立天文台長 殿

平成 23 年 3 月 24 日

(代表者)
所属・職名 鹿児島大学大学院理工学研究
科・

教授
氏 名 和田 桂一



研究集会名	第23回理論天文学宇宙物理学懇談会シンポジウム: 林忠四郎と日本の理論天文学
開催期間	平成22年 12 月 20 日 ~ 平成22年 12 月 22 日
開催場所	京都大学 基礎物理学研究所
参加人数	約180名
研究集会の概要	<p>長く日本の宇宙物理学、天文学、惑星科学の中心的存在であり、また日本の多くの研究者のゴッドファーザー的存在でもあった林忠四郎先生が2月28日に逝去された。そこで、今年度の理論懇シンポジウムは林先生の追悼を兼ね、日本の理論天文学における林先生の業績のレビューと最近の発展をテーマとして開催した。</p> <p>林先生は、宇宙物理学、天文学、惑星科学の3分野に渡って、後世に残る業績をあげられた。まず、1950年にはビッグバン宇宙論における元素合成に関する先駆的な仕事をなされた。50年代後半から60年台にかけては、初期の門下生らと共に成し遂げた星の進化および原始星形成に関する記念碑的研究がある。60年台後半からは、太陽系形成に関する研究に取り組み、現在でも標準的とされる京都モデルを確立された。そこで、シンポジウムのパートIではまず、これらの研究の歴史的経緯に関して当時林先生の門下生に講演していただいた。林先生のもう一つの偉大な点は、その研究室から優れた研究者を多数輩出した点である。林研を起源として、さまざまな分野の研究が国内で花開き、さらに各門下生が日本各地で後進を育成することにより、日本の宇宙物理学・天文学が大きく発展した。パートIIでは、その流れに沿った現在の展開状況を各分野の専門家に講演していただいた。</p> <p>SOC: 柴田 大、田中 貴浩、佐々木 節、白水 徹也、大向 一行(京大) 観山 正見、郷田 直輝(国立天文台)、和田 桂一(鹿児島大) 佐藤 文隆(京大名誉教授)</p>

(裏面あり)

<p>研究集会の成果</p>	<p>3日間にわたり、以下の招待講演(各45分)を行った。この他に各分野でポスドク、博士課程の学生を中心としたcontributed talkを 18件(各15分)、ポスター講演を 74件、行った。 ここ数年の理論懇シンポジウムの中では、最も多くのシニアから若手まで研究者、学生が 参加し、下記にあるように理論天文学、宇宙物理学の広範な分野において講演が行われ、大変活発な議論があった。多くの若手研究者が参加したことから今後の日本の理論天文学、宇宙物理学分野の発展が期待できる研究会となった。国立天文台からの補助は、以下の内訳にあるように学生、ポスドクの旅費補助に使わせていただいた。</p> <p>パートI: 林先生の業績と思い出 林忠四郎先生と元素合成理論 佐藤 文隆 林忠四郎先生と星の進化 杉本 大一郎 林忠四郎先生と原始星形成論 中野 武宣 林忠四郎先生と太陽系形成論 観山 正見</p> <p>パートII: 現在の展開 高エネルギー宇宙物理学 井岡 邦仁 太陽系・惑星形成論 井田 茂 原始星・星間物質理論 犬塚 修一郎 初代天体・銀河形成論 梅村 雅之 数値相対論 柴田 大 ビッグバン宇宙論 杉山 直 インフレーション宇宙論 田中 貴浩 専用計算機 牧野 淳一郎 超新星爆発理論 山田 章一 ダークマターと構造形成 吉田 直紀</p>
<p>その他参考 となる事項 (希望事項も含む)</p>	